

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

〈海外招待講演〉 国際生命情報科学会誌 20巻2号 pp.310-315 参照

全体的治療における心と体の関係 (Mind/Body Relationship in Total Healing)

全 世一
(Sae-il CHUN)

韓国 Pochon CHA 大学 代替相補医療大学院 院長 /
会長：Korean Society of Alternative Medicine /
会長：Korean Jungshin (Qi 氣) Society /
副会長：Int'l Soc. Phys. Rehab. Med.

(Pochon CHA University, Graduate School of Complementary
Alternative Medicine (Seoul, Korea))

要旨：ともに西洋医学、東洋医学でも最大の目標は病気を無くし健康な状態を保つことにある。現在、西洋医学は科学的取り組みを取るのに比べ東洋医学はまだ人間性重視の取り組みを保持している。五千年の伝統医療はまだ治療法分野で21世紀の現代科学医療に挑んでいる。“病気優先”の西洋医学は人間のおかれている状態を“病気”と“無病”の状態とに分類する。しかし“健康優先”の東洋医学は“健康”と“不健康”の状態とに分ける。普段の健康を保つためには5つの原則が強調されている。それらは、1) 正しい食生活、2) 正しい運動、3) 十分な睡眠、4) 正しい呼吸、5) 健康な心。不健康な状態を健康な状態へ逆転するには以下のような方法が有効である。1) 天然薬療法、2) 運動療法、3) 刺激療法（鍼治療、灸治療、指圧、吸角治療、など）。病気を排除するには4つのアプローチ、すなわち1) 化学的、2) 身体的、3) 心理的、4) 外科的、な治療が使われている。多くの伝統的な医療があり、隠れた民

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

間医療、そして多種のあまり認められていない治療法や説が存在する。その幾つかは東洋文化に由来し、また他は西洋文化から由来している。西洋医学の専門家は客観的に科学的方法によってだけ明らかに証明された情報だけが、（従来の）西洋医学として認められると主張している。それ以外のすべての医学的治療と健康法は、ひとくくりに“代替医療”または“相補医療”と呼ばれている。WHOによるもっとも新しい健康の定義は“健康とは身体的、心理的、社会人間的、そして霊性的な健康を含んだものである”。代替医療はこの新しい健康というコンセプトを扱う上で、より多く広い範囲での方法論を提供している。東洋医学と代替医療は人間性重視の取り組みを用いて人全体を癒すという共通の特徴を持っている。すなわち、“人を癒す”ということは“有機体の病気を治療する”ということだけではないのである。心は感情、知識、意識、直観、そして魂という要因から成っている、その一方で体は形、強さ、エネルギー場、生命力、そして遺伝という要因から成っている。これら心と体の10の要因に調和がとれ、お互いのバランスがとれている時、治癒機能は最大のレベルにまで活性されている。同じように、健康はこれらすべてが調和されているときにしか達成されないものである。

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

〈海外招待ビデオ講演〉 国際生命情報科学会誌 20巻2号 p.316 参照

スピリチュアルヒーリング（心による癒し）： その科学の現状

(Mental and Spiritual Healing :
A Critical Review of the Science)

ウェイン・B・ジョナス、シンディ・クロフォード、ロナルド・A・チェズ
(Wayne B. JONAS, Cindy CRAWFORD and Ronald A. CHEZ)

米国 サミュエリ情報生物学研究所
(Samueli Institute for Information Biology (CA, USA))

要旨：この講演は、スピリチュアルヒーリングに関連する主要5領域において、科学的知見の量的側面と質的側面を紹介する。また、下記の事項にも触れる。

- 1) 宗教的・精神的実践の健康への影響
- 2) 助けの祈りと治癒の祈り
- 3) 心－物質間相互作用の研究
- 4) 生命システムに対する直接的精神作用
- 5) 機器を使わない「エネルギー」療法
- 6) 臨床現場におけるヒーリングの影響

さらに、この調査研究から示唆されるスピリチュアルヒーリング、エネルギー医学、意思力の研究の今後について議論する。

ウェイン・B・ジョナス博士の紹介：

米ノースカロライナ州のバウマン・グレイ医学校卒。アメリカ家庭医学会会員。陸軍軍医としてドイツにおいて、ホメオパシー、生体

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

エネルギー療法、心身療法、病床宗教教育などの教育訓練を受けた。ワシントンのウォルター・リード陸軍研究所で免疫学や毒物学を研究。米国の生物・医学の研究と予算配分機関である国立衛生研究所(NIH)の代替医療局(OAM) (現在の国立補完代替医療センター：NCCAM)の局長となり、代替医療分野の研究配分予算を大幅に増加させた最大の功労者である。博士は、補完代替医療に関する優れた研究データの収集と評価、その情報の伝達・普及に努め、今後医療が進むべき新しい方向を示し、それは日本国内の医療をめぐる動向にも大きな影響を及ぼしている。

Wayne B. JONAS , M.D.
Director, Samueli Institute for Information Biology,
Suite 300, 2101 E Pacific Coast Highway, Corona del Mar,
CA 92625-1900, USA
Phone: 949-760-4417 Fax: 949-759-5707
E-mail: wbjonas@aol.com

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

〈海外招待講演〉 国際生命情報科学会誌 20巻2号pp.373-378参照

ケストラー超心理学講座の研究計画 および意識の研究

(The Koestler Parapsychology Unit and the Study of
Consciousness)

ロバート・L・モリス
(Robert L. MORRIS)

英国 エジンバラ大学 哲学・心理学及び言語学部
ケストラー超心理学講座 教授

(The Koestler Parapsychology Unit , School of Philosophy, Psychology
and Language Sciences, University of Edinburgh(Scotland))

要旨：ケストラー超心理学講座（KPU）は一部の個人の未確認感覚運動機能による環境との交流能力の組織的かつ信頼性の高い研究を行うために、1985年に設立された。もしこのような能力が存在するのであれば、人間の意識と心の本質について、精神世界の一面に重要な意味合いを投げかけることになる。一つ以上の新しい機能が働いているかもしれない。それは物理学の新側面を切り開くだけでなく、心と物質の間の直接的相互作用に新しい意味をもたらすかもしれない。私達の講座の研究は3つの主要分野を含む。一つめは身体的要因の研究、なぜならそれらが脳と心の能力に影響している可能性があるため。二つめは心理的経験の研究、経験をどのように解釈しているか、どのような状態がそれらの経験に役立つのか、どのような認識過程が含まれているのか、そしてどんな心理学的説明がこのような経験につけられるのか。三つめはこのような経験が、哲学的に、人に、そして社会全体にもたらす意味合い。もしこのような経験を見極めるには、少なく

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

とも 12 通りの解釈がある。偶然、不適切な観察、観察の誤解釈、不適切な記憶、隠れた身体的要因、自己をだますこと、他人からの詐欺、情報処理の機能的誤認識、情報処理の生物学的誤認識、十分に理解されていない身体的要因、現在知られていない自然の処理過程、そして超自然な原因。最初の 10 は現在の科学的知識を含む。11 つめは超心理学から生ずる新しい種類の知識、そして 12 つめは可能な超自然効果、つまり科学が調査しきれないものである。上記の一部として、私達のいくつかの研究は人がどのように信念を作り、保持するのかということを含む。そしてそれは信じているものに対し極度に達すると機能障害を引き起こす信念も含む。上記に加え、幾つかの私達の研究は心霊現象の純粋な例であると思われるものも取り扱っている。例えば、私達は遠くから他人の覚醒度や意識集中度を変化させられる人の能力を研究する。また、軽い感覚制限状態にある人が離れたところにあるモニター画面に映し出された鮮明な映像に影響されるという能力も研究する。この実験はいずれも私達の研究所以外でも明るい見通しの結果が出ている。また後者の方法は、創造力の高い人において、特に強力な結果が出ている。これらの結果を総合的にまとめると、私達には従来の物理学、生物学、心理学の範囲を超えて環境と相互作用できる能力があることが示唆される。これはすべての関わっている機能がさらに全面的に理解されるまで、私達自身に対する知識と意識の性質の知識はとても不完全なものとしてありつづけるであろう。

Robert L. Morris, Ph.D.
Koestler Parapsychology Unit, School of Philosophy,
Psychology and Language Sciences, University of Edinburgh
7, George Square, University of Edinburgh, EH8 9JZ, UK
E-mail: rlmorris@ed.ac.uk

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

〈海外招待講演〉

国際生命情報科学会誌 20巻2号 p.379 参照

中国の人体科学の現状と展望

(The Present Conditions and the Prospects of Somatic
Research in China)

徐 蘭許
(Lanxu XU)

中国 中国人体科学学会 理事長
(President, Chinese Society of Somatic Science (Beijing, China))

要旨：中国科学院の院士である銭学森は、「特異功能」は「人体科学」の重要な一部分であると提起した。中国は、特異功能について20年にわたる研究の歴史がある。

特異功能の学術的客観性について、大論争が起きたことがある。その争点は特異功能現象の信憑性であり、一部の学者は常軌を逸したものだ、自然科学の原則を逸脱したインチキ、マジック、トリックなどといって批判した。一方、一部の学者はこれを真摯に受け止め、何度も繰り返し研究した。彼らの多くは、科学的観察と使い得る限りの科学的手段を用いて測定・研究し、その結果、特異功能は認めざるを得ない客観的事実であるとの結論に達した。また、特異功能について多くの規則性を観測した。

人体は、開放的かつ複雑かつ意識をもったマクロシステムである。気と経絡は、人体というマクロシステムに隠された重要なパラメータであり、特異功能現象を深く研究することは、人体をさらに深く理解し、人体の潜在能力をさらに開発し進歩させる力となる。それは21世紀の科学革命を触発するきっかけとなり、量子力学や相対

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

性理論以上に意味深い科学革命となるかもしれない。

本講演では、さまざまな特異機能現象のうち、特異感知（ESP）についてその規則性と興味深い研究結果とを述べ、さらに、特異機能のメカニズム研究における大胆な仮説—たとえば、機能態説、類電磁場説、多次元空間説—について、簡単に紹介する。

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

〈海外招待発表〉 国際生命情報科学会誌 20巻2号 pp.380-388 参照

脳機能画像（fMRI）による予感の研究 （ A fMRI Brain Imaging Study of Presentiment ）

ディック・J・ビールマン

（ Dick J. BIERMAN and H. Steven SCHOLTE ）

オランダ ユトレヒト大学 超心理学講座教授,

アムステルダム大学 心理学科 助教授

（ University of Amsterdam (Amsterdam, Netherlands) ）

要旨：この研究は予想の神経基礎を機能的磁気共鳴画像法(fMRI)によって調べたものである。10人の被験者は48枚の画像が呈示されている間、それをずっと眺めていた。各刺激系列は、予想の測定前と測定中に、4.2秒間の凝視点の呈示で始まった。同じく4.2秒間の刺激画像の露出の後、被験者が刺激呈示から回復する期間として8.4秒が与えられた。実験の結果、視覚野の大部分が平穏画像時に比べて、情動画像の後により活発になることが分かった。差異の見られた全ての脳領域は、扁桃体またその近傍領域を除いて、平穏画像にも反応した。ここでは暴力的画像と性的画像は反応を発生させるが、平穏画像に対する反応は変化が少ない。予想効果はベースラインの値に影響しやすく、そのため反応値にも影響する。これは、被験者が次に現れるであろう映像の種類を推測している場合には問題になるが、適切なランダム化が行われていれば理論上、推測は不可能である。映像の種類ランダム化は差し替えと共に慎重になされ、また各刺激呈示には異なった画像が使われた。適切なランダム化にも関わらず、結果は情動画像の呈示前の先行活性化は中立画

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

像の前のそれよりも大きかったことを示した。男性被験者では性的画像の前にこの効果が現れ、女性被験者では性的画像と暴力的画像の前にこの特異な効果が現れた。この「予感 (presentiment) 」とも呼ばれる明白な異常について、考え得る説明を検討する。最も有り得そうな可能性は、この効果が、多くの可能な分析方法の中から適切な分析方法を正しく「釣り上げた」からだ、というものだ。情動刺激と平穏刺激に対する反応の差異の効果について、探索的な結果を報告する。

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

〈海外招待発表〉 国際生命情報科学会誌 20巻2号 pp.555-558 参照

気功外気の実験的研究

(A Review on Experimental Research of
External-Qi of Qigong)

劉 天君

(Tianjun LIU)

中国 北京中医薬大学 教授

(Beijing University of Chinese Medicine (Beijing, China))

要旨：気功の基礎科学研究の一部として、1980年代、外気（気功外気）の実験的研究が盛んに行われ、社会的注目を集めた。本報告は、最近10年間の気功および外気の実験研究約170件を分析・評価する。本報告は、実験科学の観点からは、気功外気の客観的実在を肯定する確証が未だ得られていないことを述べる。しかし、確証が無いことは否定を意味しない。研究においては、実験科学で確証されていないものは、前科学、あるいは人々に理解されていない科学、あるいは疑似科学と呼ぶべきであろうが、だからといって、すべてが疑似科学というわけではない。これまでの実験が気功外気の実在を実証する基礎として十分でなかっただけであり、否定を意味しない。現在のところ、外気の実在を否定するには実験的基礎が十分でない。本発表では、2種類の外気の定義と、外気の実験的研究を促進する5つの方法を取り上げる。定義の1つは、気功外気はよく訓練された気功実践者の身体から非接触的方法で送信される生物学的作用力の1種というものである。5つの手段には、二重盲検法の適用、多重対照実験の推進、誤差分析、作動過程の説明、他

「潜在能力の科学」国際フォーラム 海外招待講演・発表

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

の実験室で違う実験者による再現の推奨などを含む。

Prof. Tianjun Liu
Mail Box 153, Beijing University of Chinese Medicine
11 Bei San Huan Dong Lu, Chao Yang District
Beijing 100029, China
E-mail : liutj@2911.net Phone &Fax : 86-10-64286724

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

〈海外招待発表〉 国際生命情報科学会誌 20巻2号pp.690-693参照

地球規模の注意集中と物理エントロピーとの 相関の探索的研究

(Exploratory Study of Relationships between Physical
Entropy and Global Human Attention)

ディーン・ラディン
(Dean Radin)

米国 ノエティック・サイエンス研究所 研究室部長
(Institute of Noetic Sciences (California, USA))

要旨：乱数を常時発生させ続ける物理乱数発生器（RNG）が世界各地に配置されている。この乱数発生器同士の相関現象を調査した結果、2001年で最も大きな相関（一日平均）を検出した日は、2001年9月11日であった。その日は驚くべき量の世界的注目が、前例のないアメリカへのテロ攻撃に伴って発生した。この偶然をより一般的に解明するために、世界的規模のニュースが報じられた日の乱数発生器の出力結果（相関現象の測定値）と平穏な日の値との比較が一年間行われた。予測は相関現象の存在を支持し、結果は統計的にも有意なものであった（ $p=0.004$ ）。独立の物理乱数システムが観察されたエントロピーの同期的揺らぎは、多数の人が注目する出来事と密接な関わりがあるかもしれないことを示唆する。これらの観察結果に対する一つの解釈は、心と物質は基本的に結びついているということである。

Dean Radin, Ph.D.
Laboratory Director,
Institute of Noetic Sciences, Petaluma, California, USA 94952
E-mail DeanRadin@noetic.org